

# 管理の務めと宣教



2026年9月12日  
第11課



あなたがたは、わたしたちの主イエス・  
キリストの恵みを知っている。すなわち、  
主は富んでおられたのに、あなたがたの  
ために貧しくなられた。それは、あなた  
がたが、彼の貧しさによって富む者に  
なるためである。

(2 コリント 8:9 口語訳)

あなたがたは、わたしたちの主イエス・キリスト  
の恵みを知っています。すなわち、主は豊かだ  
ったのに、あなたがたのために貧しくなられた。  
それは、主の貧しさによって、あなたがたが  
豊かになるためだったのです。  
(2 コリント 8:9 新共同訳)



スチュワードシップとは、自分に託されたものをどのように管理するかという姿勢のことです。

コリントの信徒への第二の手紙の文脈において、「管理」とは、使徒による特定の取り組み、すなわち、非常に困難な状況にあったエルサレムの教会を助けるために、異邦人の教会が献金を集めるという取り組みを指しています。

コリントの信徒たちはすでに支援を約束しており、その約束を実行に移すべき時が近づいていた。マケドニアの諸教会もすでに協力し始めていた。パウロが関心を持っていたのは、寄付金の額そのものではなく、信徒たちが受けた恵みに応えるこの機会に、どのような動機と熱意を持って参加するかという点であった。



### スチュワードシップの起源:



イエスの模範



動機



### スチュワードシップを実践する方法:



計画



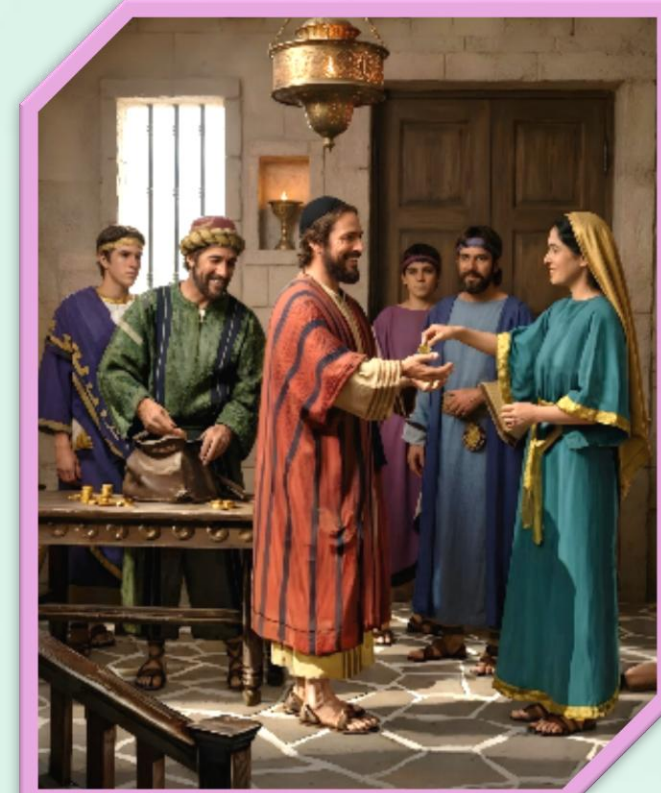
姿勢



### スチュワードシップの成果:



一致





# スチュワードシップの起源

# イエスの模範

あなたがたは、わたしたちの主イエス・キリストの恵みを知っている。すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられた。それは、あなたがたが、彼の貧しさによって富む者になるためである。(Ⅱ コリント 8:9)

神の恵みと寛大さとは、どのような関係にあるのでしょうか。(Ⅱ コリ 8:1-2)

神はマケドニアの諸教会に恵みを与え、彼らは「豊かな寛大さをもってあふれ出た」(Ⅱ コリ 8:2)。そして、これこそが、彼らと私たちに對するイエスの恵みなのです。

そして、主はすべてを、私たちへの愛ゆえに行われたのです！  
(ヨハ15:13、エペ5:2、ガラ2:20、Ⅰヨハ3:16)

私たちはイエスの恵みにどのように応えるのでしょうか。  
「ただで受けたのだから、ただで与えなさい」(マタ10:8)。

彼は富んでいたにもかかわらず、貧しくなった  
(2コリ 8:9)

彼は天を離れ、地上で暮らすためにやって来た。

彼は宇宙を統治するのをやめ、大工になった。

彼は安全な場所を離れ、敵地で暮らすことになった

彼は王冠をイバラの冠と交換した



イエスの誕生、生涯、死、そして復活について深く考えてみてください。  
これらすべてが、あなたがこのひどい  
この世の生活を超えたものに希望を  
持てるようにと、あなたのために成された  
のだとわかったとき、あなたはどのような  
反応を示すべきでしょうか。

# 動機

わたしたちの希望どおりにしたばかりか、自分自身をまず、神のみこころにしたがって、主にささげ、また、わたしたちにもささげたのである。(2 コリント 8:5)

マケドニアの人々が恵みに対して示した反応に注目してください：



彼らはイエスからの恵みを受けた (Ⅱコリ 8:9)

彼らはイエスに身を捧げた (Ⅱコリ 8:5)



彼らは、他者を助けるという特権を懇願した (Ⅱコリ 8:4)

彼らは自らの貧しさを顧みず、進んで献げました (Ⅱコリ 8:2-3)

このことから、私たちは何を学べるでしょうか？

神の恵みへの感謝  
(Ⅱコリ 9:15)

イエスは私たちのために全てを捧げてくださいました。私たち自身の全てを主に捧げたいという願いの中に、私たちの感謝の心が表れます。

神の祝福を分かち  
合いたいという願い  
(Ⅱコリ 9:11a)

私たちが他者に与えるのは、まず神から与えられたからなのです

心からの愛  
(Ⅱ 8:24)

寛大さは、私たちの心に愛が宿っていることの証です



あなたはどれほど心が広いでしょうか。  
十字架を踏まえて、あなたが  
与えるべきものと比べて、  
実際にどれほど与えているでしょうか。



# スケジュールドリットを実践する方法

# 計画

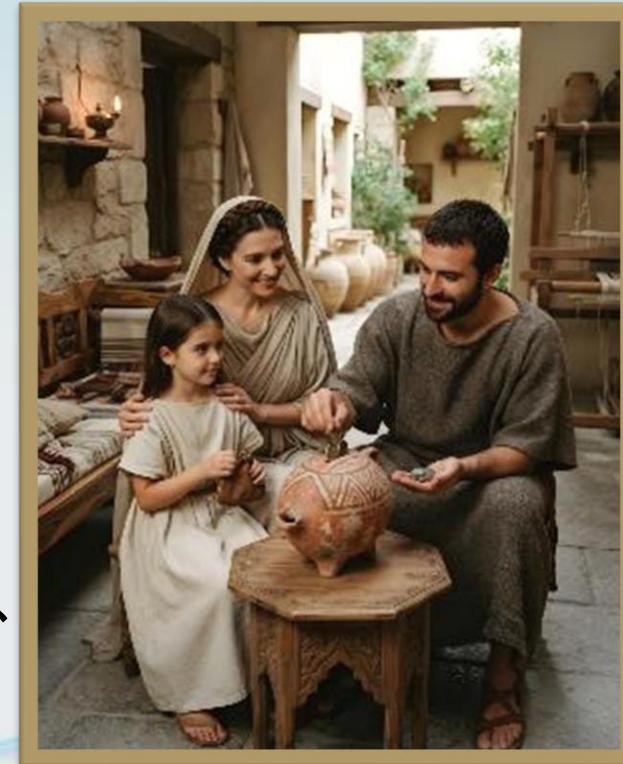
各自は惜しむ心からでなく、また、しいられてでもなく、自ら心で決めた  
とおりにすべきである。神は喜んで施す人を愛して下さるのである。

(Ⅱ コリント 9:7)

パウロが提案した計画は、マケドニアとアカイア（コリントがあった州）の諸教会から特別献金を集め、エルサレムの教会を助けるというものでした（ロマ15:26）。

一年前に使徒がコロサイでこの計画を提案した際、当時は具体的な目標は設定されていなかったものの、その提案は熱狂的に受け入れられた（Ⅱコリ9:1-2）。しかし、各信徒は心の中で、特定の金額を献金することを決意した（Ⅱコリ9:7a）。

献金を計画する際、各家庭は自らの経済状況に応じて、自己評価を行い、現実的な目標を設定すべきです。



パウロがその計画に盛り込んだもう一つの点は、一度にすべてを差し出すのを待つのではなく、目標額に達するまで毎週少しずつ取り分けておくべきだということである（Ⅰコリ16:2）。そうすれば、パウロが到着した際に、献金全額を喜びをもって集めることができる（Ⅱコリ9:3-5）。



裕福であっても貧しくても、あなたは什一や  
献金にいかに忠実ですか。  
もっとささげられるのに、どんな言い訳を  
してためらってしまっているのでしょうか。

# 姿勢

わたしはあかしするが、彼らは力に応じて、否、力以上に施しをした。すなわち、自ら進んで、  
(Ⅱ コリント 8:3)

コロサイの人々の寛大さを促すため、パウロはマケドニアの例を挙げています。そこにある教会では、兄弟たちが献金において適切かつ模範的な態度を示していました。というのも、彼らは……

喜びをもって  
(Ⅱ コリ 8:2a)

彼らは、贈ることができて嬉しく  
思った

寛大に  
(Ⅱ コリ 8:2b)

彼らの貧困は障害にはならなかった

喜んで  
(Ⅱ コリ 8:3)

彼らは自発的かつ自然にそれを行った

特権として  
(Ⅱ コリ 8:4)

この行為によって、彼らは神と教会  
への愛を示すことができました。

奉献のしるしとして  
(Ⅱ コリ 8:5)

神への献身は、他者への献身へと  
つながった



## Ⅱ コリント 8:1～5を読んでください。

**8:1** 兄弟たち、マケドニア州の諸教会に与えられた神の恵みについて知らせましょう。**8:2** 彼らは苦しみによる激しい試練を受けていたのに、その満ち満ちた喜びと極度の貧しさがあふれ出て、人に惜しまず施す豊かさとなったということです。**8:3** わたしは証しますが、彼らは力に応じて、また力以上に、自分から進んで、**8:4** 聖なる者たちを助けるための慈善の業と奉仕に参加させてほしいと、しきりにわたしたちに願い出たのでした。**8:5** また、わたしたちの期待以上に、彼らはまず主に、次いで、神の御心にそってわたしたちにも自分自身を献げたので、

マケドニア州の信徒がこれほど惜しみなく献金をささげた背景には、どんな理由があったのでしょうか。



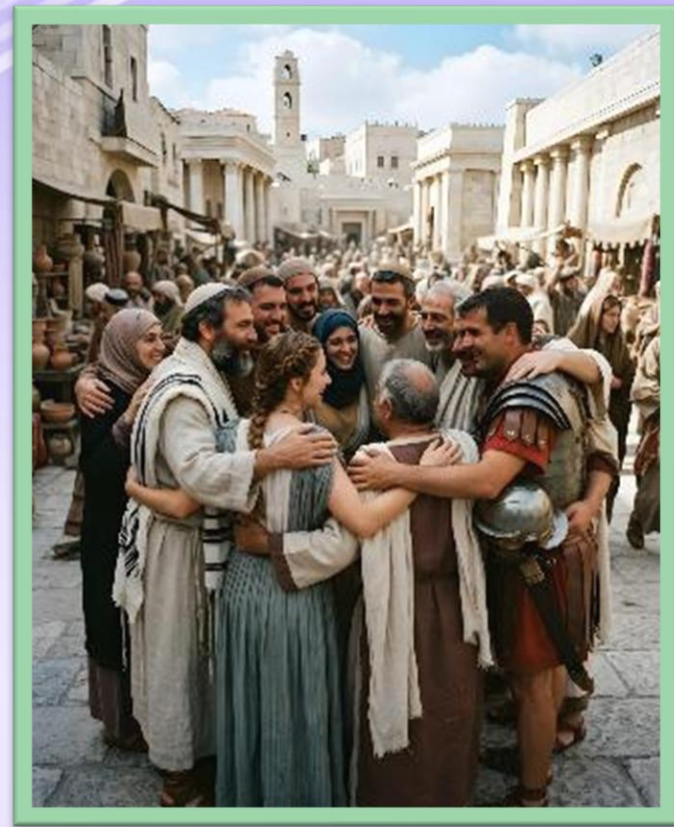
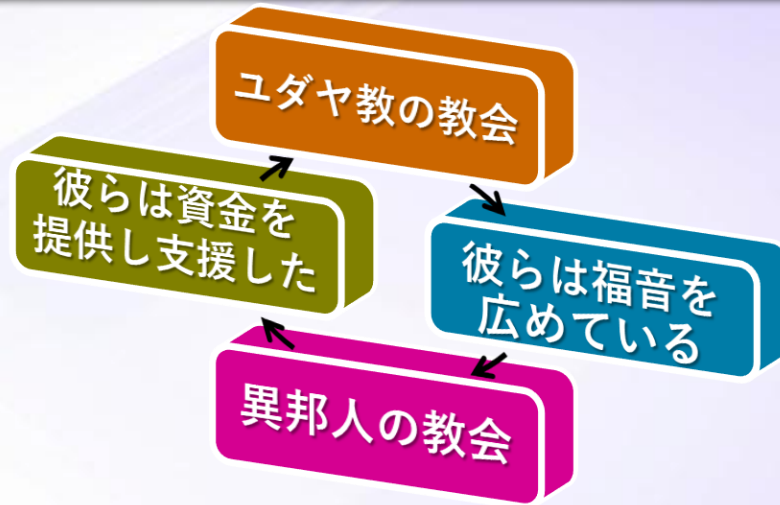
# スチュワードシップの成果

# 一致

なぜなら、この援助の働きは、聖徒たちの欠乏を補うだけでなく、神に対する多くの感謝によってますます豊かになるからである。  
(Ⅱコリント 9:12)

エルサレムに捧げられた献金には、他にも良い影響がありました（Ⅱコリ9:12）。

ユダヤ人と異邦人は、助け合いと感謝の絆によって結ばれていた（ロマ15:26-27）。こうして、使徒の究極の目標である「教会における一致」が達成されたのである。



地元の  
教会

教区／宣教  
区／連合会

部局

世界総会  
本部

もう一つの良い点は、この献げ物の取り扱い方から、現代の私たちにも特別な教訓が得られることです。すなわち、あらゆることは秩序正しく、正しい手順に従って行わなければならないということです。

パウロはティトウスを献金の管理責任者に任命し、各教会もこの任務を補佐する兄弟たちを任命した（Ⅱコリ8:16-24）。献金を集めてエルサレムへ送るには、これ以外に適切な方法がなかった。

遠く離れたところにある教会や海外の  
宣教団体へ私たちが献金することは、  
どのようにして世界教会の一致を  
もたらすのに役立つのでしょうか。

「神の御業は、什一献金や献金、捧げ物によって支えられなければなりません。主は今、ご自身の執事に委ねられた手段を求めておられます。[...] 主イエスは、ご自身が成し遂げられたこと以上のことを、弟子たちに求められません。神の大義のために自己否定と自己犠牲を実践する者たちは、ただ主の模範に従っているに過ぎません。主は王の衣と王冠を脱ぎ捨て、その高き地位から降りられました。主は貧しくなられました。それは、主の貧しさを通して、私たちが永遠の宝を手にすることができるためです。主は、神の御国への入り口を求める者たちからあらゆる障害を取り除くために、ご自身の富だけでなく、自己否定と自己犠牲をもって ご自身の命までも捧げられました。[...] 主イエスは、私たちが御自身と共に働く者となるよう招いておられます。主は私たちの所有するすべてのものの所有者であり、それに対する権利をお持ちです。主の御業を喜んで助けることによって、私たちは今、主への愛を示すことができるのです。」